

総 合 企 画 局  
〔 担 当 情 報 化 推 進 室  
市民協働政策推進室  
TEL 222-3257 〕

## 京都オープンデータ活用イベント 「まちづくりにオープンデータは使えるの？」の開催について

国や自治体が持っている人口、予算、税収入、防災、観光施設、子育て、介護・福祉などの情報を、誰もが自由に加工・利用できるようにして公開する、オープンデータの取組（別紙参照）が、全国で進められています。

オープンデータの推進により、新しいサービス・商品やビジネスを創出して、経済の活性化や行政の透明性を向上させ、市民の信頼を高めることが期待できます。

この度、京都市では、オープンデータの意義や有効性を知り、オープンデータとして公開した京都市が持っている様々な情報の有効な活用方法について、市民が自由な発想で意見交換、アイデア出しを行うイベントを開催しますので、お知らせします。

### 1 日時

平成26年3月23日（日）午前10時～午後4時

### 2 会場

京都御池創生館 地下1階 研修室（中京区御池通柳馬場東入）

### 3 内容

時間	内容
10時～12時	<b>「オープンデータを知ろう！」</b> <b>～オープンデータについて、いろいろな人の話を聴く～</b> オープンデータの意義や有効性を知ることが目的に、データの提供者・利用者、IT企業、大学教授などによる会議を開催します。 午後から行うワークショップに参加する方が、この会議を傍聴・参加して、オープンデータに関する理解を深めます。
12時～13時	休憩
13時～16時	<b>「アイデアを出し合うワークショップ」</b> <b>～オープンデータの使い方を考えよう！～</b> あらかじめ設定したテーマごとのグループに分かれて、「こんな情報が、こんな形であれば、こんなことができる！」と、オープンデータの利活用について意見交換、アイデア提案を行います。 <b>テーマ</b> ①観光・国際交流 ②安心安全 ③環境 ④子育て・教育 ⑤介護・福祉・医療 ⑥交通 ⑦文化 ⑧建設・産業 ⑨その他 ※興味のあるテーマを二つまで選んでいただき、同じテーマを選んだメンバーごとのグループに分かれて話し合いを行います。

#### 4 参加費

無料

#### 5 定員

50名（先着順）

※託児可能（先着10名。対象年齢は原則として生後6ヵ月～小学校3年生とします。）

#### 6 募集期間

平成26年3月4日（火）～平成26年3月18日（火）

#### 7 申込方法

催し名（京都オープンデータ活用イベント）、郵便番号、住所、氏名、電話番号、託児の希望の有無（希望する場合は、利用する子どもの氏名、性別、年齢を明記）、ワークショップで参加したいテーマを下表から2つまでを選択のうえ、申込先まで電話、FAX又はメールでお申し込みください。

テーマ		
①観光・国際交流 観光案内、外国人・留学生との交流 など	②安心安全 防災、防犯 など	③環境 ごみ減量、温暖化対策 など
④子育て・教育 育児支援、学校教育 など	⑤介護・福祉・医療 高齢者、障害者支援、疾病予防 など	⑥交通 バス、地下鉄 など
⑦文化 文化芸術、スポーツ など	⑧建設・産業 道路、公園、商業振興 など	⑨その他 ①～⑧以外の関心あるテーマ

#### 8 申込先

京都いつでもコール（受付時間：午前8時～午後9時）

電話 075-661-3755

FAX 075-661-5855

メール 下記ホームページの送信フォームを御利用ください。

<http://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000012821.html>

#### 9 問合せ先

総合企画局情報化推進室（TEL075-222-3257）

#### 10 主催

ITコンソーシアム京都、京都市、（公財）京都高度技術研究所

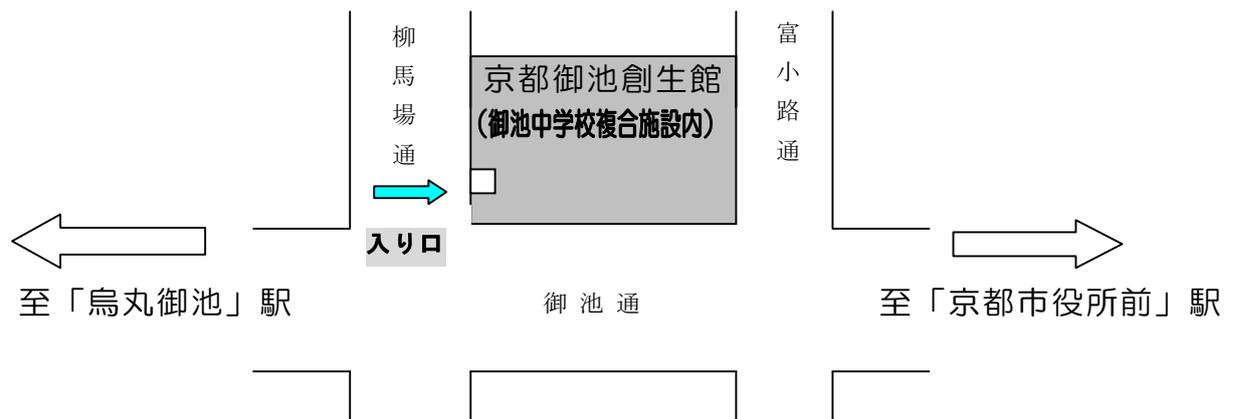
#### 11 共催

（一社）京都府情報産業協会

#### 12 後援

京都コンピューターシステム事業協同組合

<会場案内図>



\* 烏丸通から東へ6筋目，河原町通から西へ5筋目が柳馬場通です。

\* 中庭の階段（柳馬場通に面している）からお入りください。

- ◎ 交通アクセス：・京都市営地下鉄烏丸線・東西線「烏丸御池」駅下車  
1番出口を出て直進，3つ目の信号を左折 徒歩5分  
・京都市営地下鉄東西線「京都市役所前」駅下車  
9番出口を出て直進，3つ目の信号を右折 徒歩8分

## オープンデータの取組について

### ◆オープンデータの活用事例

行政が持っている様々な情報をオープンデータとして公開することで、民間企業や個人が、オープンデータを活用してホームページやスマートフォンのアプリケーション等による、次のようなサービス提供を行うことが期待できます。

- 京都市の歳入・歳出予算のデータを加工して、グラフで表示することにより、「自分が納めた税金が、どんな事業に、いくら使われているか」が、一目でわかる。
- 広域避難場所、AEDの設置箇所、公衆トイレ等の位置情報と地図情報を組み合わせて、今いる場所から最寄りの施設への道案内を行う。
- 名所・旧跡、文化財、観光施設等の位置情報、開花情報、展覧会等のイベント情報を組み合わせて、地域ごとの観光コースを提供する。

### ◆オープンデータによる効果

- オープンデータの取組を進めることにより、民間での活用を促進し、新規サービスやビジネスを創出して経済を活性化することができます。
- 行政の透明性が向上し、行政に対する市民の信頼を高めることができます。
- 市民自らが、行政の政策等に関して十分な情報を入手する環境を整えることにより、行政参画、市民協働を促進することができます。

### オープンデータとは

国や自治体が持つ、人口、所得、税金、子育て、介護・福祉、防災などの情報を、コンピュータが読み取れるデータ形式にして公開することにより、誰もが自由に加工・利用して、サービス・商品の開発や独自分析等に活用できるようにすることです。

オープンデータが広く活用されることによってもたらされる経済活動の活性化、行政の透明性の向上に国際的な注目が集まっています。